

# 平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：生涯学習推進センター事業

平成 26 年 9 月 13 日（土）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p>【土屋龍一郎氏（有識者）】</p> <p>平成 25 年度から平成 26 年度にかけて、運営経費が 400 万円ほど増加しているのはなぜか。</p> <p>また、職員数が減っているのはなぜか。</p>	<p>【下條文化財・生涯学習課課長兼生涯学習係長】</p> <p>運営経費が 400 万円増加しているのは、平成 25 年度から、当センターの所長が県の正規職員から行政嘱託になったことにより、その人件費を運営経費として計上したためである。</p> <p>職員数が減少しているのも、当センターの所長を正規職員から行政職委託に振り替えた分、正規職員が減少したということである。</p>
<p>【小宮山淳氏（有識者）】</p> <p>生涯学習の指導者を養成するということが、市町村の職員や公民館主事等の専門職に就いている者だけでなく、市町村の公民館で主催している事業を支援していただけるようなボランティアの養成も推進していくべきではないか。</p>	<p>【小野文化財・生涯学習課長】</p> <p>講座後のアンケート調査や追跡調査により、受講者の 7 割くらいの方は、講座で学んだことを公民館の講座等に生かしたいと回答している。しかし、実際にどう活動にむすびついているかということについては課題であると思う。</p>
<p>【福田志乃氏（有識者）】</p> <p>講座のテーマは、「子ども」や「若者」に偏っているように見えるが、どのように決めているのか。</p> <p>これらの講座の参加者は保護者が中心となっているのか。</p>	<p>【小野文化財・生涯学習課長】</p> <p>講座のテーマは、アンケートの結果や、市町村・市町村教育委員会・公民館等の要望をいただいた中で決めている。</p> <p>参加者は、内容にもよるが、保護者や市町村の保健師など、子どもに関わる方が多い。</p>
<p>【福田志乃氏（有識者）】</p> <p>市町村の公民館の役割と、生涯学習推進センターの役割の違いは何か。</p> <p>事業内容が、地域づくり、人づくりという理念から乖離しているように感じる。</p>	<p>【小野 文化財・生涯学習課長】</p> <p>市町村の公民館は、地域の住民に直接の学習機会を提供するものである。</p> <p>このような公民館での講座などを企画・運営等できるような指導者を育成することが県生涯学習推進センターの役割であると考えている。</p>

## 平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：生涯学習推進センター事業

平成 26 年 9 月 13 日（土）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p><b>【福田志乃氏（有識者）】</b></p> <p>保育園や保育所、児童館などの類似施設の事業と内容が競合するのではないかと。</p> <p><b>【白戸洋氏（有識者）】</b></p> <p>まず、「生涯学習」のコンセプトについては、平成 21 年度の生涯学習審議会の答申に基づき、県としては、それまでの「個人の人生の充実」ということから、「地域課題の学習やその解決」にウェイトを移していこうという流れがあったことを確認したい。</p> <p>また、センターの役割としては、市町村職員や中央公民館だけでなく、公民館の分館や町内の自治公民館なども含めて、人材育成をしていると考える。</p> <p><b>【土屋龍一郎氏（有識者）】</b></p> <p>講座の参加者は先ほどの説明では保護者が多いということで、今の指導者の養成という話と違っているのではないかと。</p> <p>また、講座を受けることで資格などは得られるのか。</p> <p><b>【小宮山淳氏（有識者）】</b></p> <p>現在地域課題等に関わって活動している人のための研修だけでなく、なかなか勉強する機会のない方が地域課題に関われるよう推進していく必要もあるのではないかと。</p>	<p><b>【小野文化財・生涯学習課長】</b></p> <p>各市町村の福祉部局で子育て等に関する様々な取組が行われており、内容としては競合している。</p> <p>しかし、県生涯学習推進センター事業は、指導者養成を目的としている点でこれらの類似施設の事業とは異なっている。</p> <p><b>【中澤生涯学習推進センター主任指導主事】</b></p> <p>当センターは、児童センターなどの職員等が、地域住民に直接指導できるよう研修やスキルアップを図ることを目指している。</p> <p>また、当センターの調査により、多くの市町村の公民館が「地域づくり」「地域コミュニケーション」「家庭教育」「子育て支援」などのテーマを、必要を感じていても講座構築が難しいと考えていることがわかった。こうした要望に応えるため、当センターでは指導者の養成・研修に努めている。</p> <p><b>【小野文化財・生涯学習課長】</b></p> <p>参加者として保護者もいる、ということである。基本的には、保護者の中でも PTA の役員など、指導的立場の方が多い。</p> <p>資格は特に取得できない。</p>

# 平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：生涯学習推進センター事業

平成 26 年 9 月 13 日（土）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p>【福田志乃氏（有識者）】</p> <p>関連して、事業費 3000 万円に対して、地域活動の専門家のような人も含め、受講者が 1600 人しかいないということについて、費用対効果をどう考えるのか。</p> <p>【小宮山淳氏（有識者）】</p> <p>センターで学んだ人たちが、いかに学んだことを還元するのか、地域活動へ参画していくのかということがないので、費用対効果の面で残念だと思う。</p> <p>【土屋龍一郎氏（有識者）】</p> <p>事業改善シートには、今説明があった今後について盛り込まれていないし、また、平成 26 年度の目標の数値からは、改善しようという意気込みが感じられない。</p> <p>また、センターが塩尻にあるということが課題なのではないかと思う。</p>	<p>【小野文化財・生涯学習課長】</p> <p>現在の講座内容は、活動されている方のスキルアップという側面が強いのは確かである。学校と地域の連携や子どものインターネット利用等といった県政課題も含めながら、これから地域で活動しようとする方への呼びかけは重要であると考え</p> <p>る。</p> <p>費用対効果については、数に表しにくい部分もある。</p> <p>今後、現在の指導者の養成だけでなく、これから活動していただける方を育てていくために工夫が必要である。</p> <p>【下條文化財・生涯学習課長補佐兼生涯学習係長】</p> <p>受講者数の目標が伸びていないのは、講義の質を求めているからである。座学・講義だけでなく、参加者の情報共有やワークショップ等を取り入れている。単に受講者数を増やすということではなく、講義の質を高めることで、受講者が学んだことを地域に持ちかえり活用に結びつくよう努めている。</p>

# 平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：生涯学習推進センター事業

平成 26 年 9 月 13 日（土）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p>【白戸洋氏（有識者）】 講座のターゲットをはっきりさせることが今後の課題ではないか。</p> <p>また、地域的なことについては、出前講座の実施など、生涯学習推進センターから遠い地域に住む県民に対してどうするかということが課題ではないか。</p> <p>【福田志乃氏（有識者）】 情報交換という話があったが、本当に勉強したい方なら、自腹を切ってでも機会を見つけて参加するのが当たり前であると考えます。</p> <p>指導者養成なのか、ボランティアの情報交換なのか。目的がぶれているのではないかと。</p> <p>【白戸洋氏（有識者）】 情報交換は、同じ職種の人だけで行っても視野が狭くなる。色々な立場にある人をシャッフルして、色々な人たちの様々な視点を学ぶことが、地域のネットワークづくりにもつながる、ということを確認にする必要があるのではないかと。</p>	<p>【小野文化財・生涯学習課長】 参加者に地域的な偏りがあるのは事実である。そこで、市町村教育委員会と共催で移動講座を開催するなどして、外に出ていくということにも取り組んでいる。</p> <p>【小野文化財・生涯学習課長】 同じ職種の者同士の意見交換では、単なる意見交換で終わってしまうため、講座の中ではワークショップを行う場合は、様々な職種・立場の人が一緒に意見交換できるように工夫している。</p>

# 平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：生涯学習推進センター事業

平成 26 年 9 月 13 日（土）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p>【酒井茂氏（有識者）】</p> <p>長野県において生涯学習とはどういうものを目指すのか、ということの基本として、生涯学習推進センターの役割についての基本的な議論をすることがこれから必要であると思う。</p> <p>【県政モニターA氏】</p> <p>生涯学習推進センターの事業は、子どもや若者に偏りがちで、硬直化している。様々な部署と連携して、例えば産業振興、商店街、農業、定住外国人など、もっと地域に即した課題を取り上げていくとともに、これらの課題に関わる人材や部署にやってもらうなど、有効利用してほしい。</p> <p>【県政モニターB氏】</p> <p>今後の事業の方向性についても、「学校と地域が連携して子どもを育てる」ということに関することを中心に取り組むとあり、「子ども学習促進センター」のように思う。このあたりをどう考えているのか。</p> <p>また、生涯学習センターで育成した指導者は、講座で学んだことを生かしているのか。成果や結果が見えてこないのか、教えていただきたい。</p>	<p>【小野文化財・生涯学習課長】</p> <p>これまでは子どもや教育に関する講座内容が多い。今後は、学び直しという視点も含めて、他部局との連携等についても今後さらに必要になってくるので検討させていただく。</p> <p>【小野文化財・生涯学習課長】</p> <p>これまでも、「学校と地域の連携」ということも県政課題としてやってきたが、今後は様々な県政課題をもう少し発展させるような形での講座を検討していかなければならないと考えている。</p> <p>【中澤生涯学習推進センター主任指導主事】</p> <p>当センターでも、受講者が受講後どんな活動をしているかということは重要だと考えているが、把握しきれておらず、課題だと認識している。</p> <p>ただ、講座をきっかけに NPO を立ち上げたなどという報告をいただいたことがある。</p> <p>また、生涯学習推進者実践講座では、受講者が自らプログラムを考えて現場に戻っていただき、地域で実践しているという状況がある。</p>

## 平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：生涯学習推進センター事業

平成 26 年 9 月 13 日（土）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p><b>【県政モニターC氏】</b></p> <p>もっと広く情報提供をして、人材を見つけるところから始めるべきではないか。</p> <p>人材を見つけて、養成して、養成した指導者がどう活動していくか、というフローチャートをきちんと設計した方が、成果が上がると思う。</p> <p>「生涯学習推進」というような言葉を使わず、もっと柔らかい言葉で投げかけた方が、県民も受け止めやすいと思う。</p> <p><b>【県政モニターD氏】</b></p> <p>講座をきっかけにして、団体同士の交流やコミュニティが生まれるというようなことがあると思う。講座後のつながりやその後の活動に対するフォローもやってほしい。</p>	<p><b>【小野文化財・生涯学習課長】</b></p> <p>情報発信が弱いということはほかの事業に関しても言われている。指導者養成の前段階として、人材の発掘につながるよう、広報手段を工夫していく。</p> <p>また、表現についても、一般の県民の方に届くよう配慮していきたい。</p>